



093.1	年 月 日
2003	
佛教大学蔵書	
第 1256912 号	







1256912

同八宗九宗は、た淨土宗にこそまじり
自由なりともをもちと余宗の人の申しけり
いふ事少き

吾宗の石山よりとて佛説ふありすも
このまじりとはるの経教ふつてなしたる
義理さるしきとて宗義を判する事
諸宗のありありてかくのとて今淨土宗
の石山にのみ淨土の正依經ふつて

往生極樂の義疎とて子と先とを先
達の言の若くして行て言の疎とて疎と
らるるものゝさやの事とていふ事とる

同法苑真言等とて難行といふ事とて
人の事とていふ事

答恵心の先徳一代聖教の要文疎といふ往生
要集疎といふ事とて中と十門疎といふ事とて第九の
往生諸業門と法苑真言等の諸大乗經疎

これとて諸行と難行ととていふ事とて
をいふ事の難者恵心の先徳といふ事とて
といふ事

同余佛余經といふ事とて善根疎といふ事とて
經助成といふ事とて難行といふ事とて

答我々阿彌陀佛の本願とて衆生とて決定信
の信疎といふ事とて他の善根とて結縁助
成といふ事とて難行といふ事とて我

往生の助業となりて于て他の善根に随喜讃
嘆せよと人々を導くをいふことなり

同極樂九品の差別の律、阿彌陀仏の
うたをわくもあらずやん

を極樂の九品の殊勝の本願ありて字々解
中よりあれ釋義の巧言也善人悪人二
ふしすといふ悪業の者の慢心破にすべ
か少少品位の差別ありて善人上品
中より悪人下品といふこと詠ねるべ
きことなりとてあらうといふこと

同持戒の行者は念仏の救護のすゝめあり
んと破戒の行人の救護のほろんと往生
のねは信浅深いづちをみせし

答ふよりいふ事あることなりとのねをい
ふことありといふことなりとていふこと
ありとていふことなりといふことなり

むをさうす高聲のうたふあふ地聲ハ
音といふさんと邪ふ事也

同日別の念佛は救返ハ相續ふらむとふはいつ
りてし事

各善導の釋ふ一万遍じ上の相續少あふ今
但一万遍といふ事申す其日毎さうさん事ハ
あるつゝす一万遍なりといふ一日一夜の所作事
一食ののひふふ二度のいふことあつんば事
相續少あふなりこれ衆生の根性不同ある
准あるつゝす心さうさふゆゑこれ自然ハ
相續いさうなり

同ハ讃の深心の申ふ十聲一聲必得往生乃至念
ふ有疑心と釋一又疏乃申す深心ハ念ふ捨者
是名正定業と釋一ねていふは事なりわらん
なりといふ事

各十聲一おの人の念佛を信するやむなり

信解の一念をいふと云ふは行をいふ念をいふ
ることをいふと云ふは先給へる人の心又人意の
一發心以後の心解と云ふなり

同一念の一念の常は機臨終機とも通志に

（子）

答一念の念の二念をいふは機を先給
て常は機に通ずるは盡一の心あり

らば人解して云ふは一念の
佛の念といふは一念の捨者は正定業
順彼佛の念故といふは順彼佛の念故の人の教
述のいふは人解して云ふは正定業
の念の機は機と云ふは盡一の心
ありは人解して云ふは正定業の
心念佛往生の念といふは善導の人の教

といふ

同自力他力の事なりといふなり

天源空の教上すといふなり器量少くある

といふなり二度なりといふなり

はれ我のいふなり儀式ふといふなり

の御ちりあるなり阿彌陀佛の御ちりある

禪名の教ふといふなり来迎をせむなり

の不審なりといふなり自力のいふなり

あるなりといふなりといふなり

といふなりといふなりといふなり

といふなりといふなりといふなり

といふなりといふなりといふなり

といふなりといふなりといふなり

生の教の中より有智無智有罪無罪善人惡

人持戒破戒男子女人三寶藏盡の後の百歳
より衆生あるべしれどかの三寶藏盡の時
の念佛者と當時のわが所をとりしれどわ
るをちる佛のとき後時人のいのち十歳
也戒定慧の三學あるをとりしれど人
ていふいふものとのりの未達ふあひあふ
子道理のしるしとわが力のあふれり
ちるやとといふ棄しとすす但極
樂のわがしるしとあく念佛の中されん
ものあり往生のやととりしれどわ
からしゆふ他力の願とりしれ超世の歡
といふあり

同そ誠等門三心即具しとすやととい
ふ思ふを先しとす

答三心殊具なるも一別極なり一阿彌
陀佛のみ尊貴し我名号殊稱念せしむる
に才未達とんと信をもつたを決定し
て引極めしむるもんするもゆつく信
えしは念口稱ふりのうかすすあつた往生
をうくる心くく取後の一念ふくもえ
をゆくもくくく自然ふ三心殊具とする

あて又在家のものといひかたし小僧も
とも念佛申しの極樂ふじするあしと
つめふ念佛殊なるも申せし三心殊具之
あるあてされしこころいふといひあての
中より神妙なる往生いふるふてあれとを
又淨土意の人意とをくく観る
やうに三寶城盡るいふあてといふ一念

あれどもなり往生——五蓮深奥の人の
いふとも十念あれい又往生す何況三寶
流布の世ふして五蓮にいくべきやれん
の名を稱念せん往生すをふつす
又云淨土の心の聖道淨土の二門を
一代の諸教を攝す主道門は娑婆の得
道あり自力勤或出離生死の教あり
のゆゑふんたのなりけり行
しかる淨土は極樂の得道あり他
カ勤或往生淨土あり。ゆゑふんたの
ふんた——やち行——やち新うのゆゑ
弥陀佛の本願稱名の行にふんた
のをたしなふところあり。ゆゑ
總——ふんたふんた五説の中ふ

佛託ありて五の中より教ふ也三身の中

より二身ありて三寶の中より佛寶也

宗の中より佛宗ありて二教の中より

二藏ありて菩薩藏也二道の中より易

頓教也

道也二行の中より正行也二趣の中より横

趣也二縁の中より有縁也二住の中より心

住ありて又云二道門の修行の智慧なり

より生死の理をわきまにす門の修行の愚癡

よりありて極樂の心よりなりといへり

八幡大菩薩御詠歌

かみきりやわかしも思ふへん

身も心も思ふへん

法然上人の事也

八思保に拾ふ

康永二年十月十八日

佛子祐高

茲書一帖十一枚首瓦一同而
黑石法然上人之真筆如旗
三百餘年以前康永年中
祐玄法師真筆之寫經列上
大無所擬予肯黑石堪悉

師上人之奉持真常之旨是也
無遠依書主之需予亦不從
其蹟如筆謹天也

省度安軍 九月上旬

前往上品終南山善導寺

後住總引殿賜紫衣新寺

以傳史謹書









法然上人淨土集一冊
右志其清方極清代
刻而後清信者其度在
淨書物以懷中之心其
意云四生以此

安政五年

午七月吉祥日

井
建玉

後井活助極

1256912

